

訪問看護でよく聞かれる各利用者様やご家族からのお声があります。

「今の自宅での生活を、安全に何とかこのまま継続していきたい。」「(利用者様が)今できている日常生活の動作(座る、立つ、歩くなど)を今後も続けられるようにしたい。」「自宅で介護サービスを利用しながら、このまま介護を続けていきたい。」等です。こういったお声に触れるたび、日々の暮らしそのものが、「継続」であると感じます。訪問看護は、利用者様やご家族が、安全安楽に在宅療養を継続されることを目指していますので、訪問時に「病状も安定し、無事に日常生活を過ごされておられる」とわかると、ほっと胸をなでおろします。

種々の介護サービスを利用しながら独居で生活されている姿や、高齢のご夫婦がお互いを労わりながら暮らされている姿等、訪問対象は様々です。

それぞれの方々が大切にされている「継続」への思いに耳を傾けながら、どうしたらその方に合った療養支援ができるかを今後も考えていきたいと思えます。



文責：濱地

お知らせ

新入社員のご紹介

こんにちは。昨年10月に、ナーシングホームもも・いなべのデイサービスに入社しました、佐々木 蓮太郎です。

私は、昨年度にももで開催された『介護職員初任者研修』を受講し、「ぜひももで働きたい」と思い、入社を希望しました。入社当初は、「自分に介護ができるだろうか?」と、利用者様への対応にも不安がありました。日々の介護を通して、利用者様に名前と顔を覚えていただくようになり、次第に仕事へのやりがいを感じられるようになりました。先輩の職員にも優しくご指導いただき、今では入浴介助や、送迎など、任せていただけるケアも増えました。これからも頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



北海道出身です!

★職員募集中★

私たちと一緒に働きませんか?
詳細はホームページを
ご覧ください

ナーシングホームもも

検索

<https://www.momo3.net>



【本社】

〒511-0241 員弁郡
東員町鳥取917-2
TEL 0594-75-0302

【鳥取】

〒511-0241 員弁郡
東員町鳥取917-2
TEL 0594-86-1110
TEL 0594-86-1113

【いなべ】

〒511-0428 いなべ市
北勢町阿下喜3514
TEL 0594-72-3530

【四日市】

〒512-8054 四日市市
朝明町441-1
TEL 059-336-3330

【桑名】

〒511-0901 桑名市
筒尾1-13-1
TEL 0594-33-0302



第27号 もも便り

梅雨入りを迎え、紫陽花が色鮮やかに咲く季節となりました。6月は夏本番に向けて気温も徐々に上がり始め、近年では「酷暑日」という新しい言葉が生まれるほど、暑さへの注意が必要となっています。今回のテーマは「継続」です。子どもの頃、「続けることが大切」とよく言われていたのですが、その頃はなかなか意味を理解できませんでした。しかし大人になった今、毎日の小さな積み重ねが信頼や成長につながっていくことを実感しています。これからも一步一步を大切にしながら、皆さまと共に歩んでいきたいと思えます。



玄関から始まった、小さな信頼

桑名

Aさんは14歳の女の子です。小学生の頃に身体の怠さから受診をしたところ、1型糖尿病と診断され、入院となりました。入院中に一生懸命インスリンの注射とカーボカウント(糖質の量を計算し、インスリンを打つ量を決める計算式)を覚えて退院しました。しかし、注射が嫌で食事を抜いてしまったり、血糖値が高くなると罪悪感で落ち込んでいました。大人は「食べたならインスリンを打てばいい」と簡単に言うけれど、インスリンの量が増えると注射の痛みも増えるし...と思うと、大好きなケーキも食べることができませんでした。

血糖コントロールの指導や食事指導のため、「もも訪問看護」が始まりました。体調が悪く学校へもあまり通っていません。訪問看護は、人見知りだったAさんと、毎回、玄関先で30分だけ向き合うことから始めました。しかし、見知らぬ看護師には、なかなか心を開いていただけなかったため、担当看護師を決め、Aさんの興味のあることからコミュニケーションを取ってみることにしました。

ある日、もも桑名が定期的で開催しているオレンジカフェにお誘いしてみました。物作りが好きなAさんは、お母さんと一緒にカフェを訪れ、リース作りに参加してくれました。Aさんは黙々とリース作りに取り組んでいましたが、スタッフや他の参加者から「すごい!」「かわいい!」と褒められると、少し照れながらも嬉しそうに笑うようになりました。そして別のカフェ開催日、折り紙で薔薇を25個折って、かわいく瓶に詰めてラッピングした物をプレゼントしてくれました。25個のバラには『幸せを祈る』という花言葉があるそうです。スタッフや、カフェを訪れる方たちの幸せを祈って、1つずつ折ってくれたと聞き、中学生のAさんがみんなの幸せを考えてくれたことにとっても感激しました。

現在、Aさんは、新たにインスリンポンプ(24時間インスリンを注入する機械)を装着する治療の説明を受けています。新しいことにもチャレンジしてみようという勇気が見られたことは、私たちにとっても、とてもうれしい出来事でした。今後も生きていく中で、大小さまざまな困難もあると思いますが、1つずつ乗り越えていけるように一緒に考えていきたいと思えます。病気と向き合うことは、時間がかかります。でも、玄関先での小さな会話と、共に何かを作る時間の積み重ねが、Aさんの「信じてみよう」という気持ちを少しずつ育てていると、私たちは信じています。これからもAさんの興味のあることや好きなことを一緒に行うことで、信頼関係を築き、Aさんが安心して何でも話せる訪問看護師になりたいと思えます。



文責：鈴木(美)・西村

もも四日市の庭では、毎年、利用者様と一緒にプランターで野菜や花を育てています。利用者様には、長年ご自宅で園芸を楽しんでこられた方も多いです。「本当はまた野菜や花を育てたいけれど、土づくりから片付けまで一人で行うのは難しくなってしまった」という声をきっかけに、この活動が始まりました。

植えるものを一緒に考え、プランターに土を入れ、苗を植え、水やりや草取り、収穫まで、利用者様ができることをスタッフと協力しながら行っています。春には満開のチューリップを散歩しながら眺め、夏には育てた夏野菜を収穫して皆で味わうなど、四季の移ろいを感じられる時間にもなっています。

この取り組みは、高齢者の健康維持に効果があるとされる「園芸療法」としても注目されています。指先や足を使うことで自然な運動になり、土の感触、花の香り、野菜の色彩、風の音など、五感への刺激が脳の活性化につながります。また、「芽が出た」「花が咲いた」「実がなった」といった小さな成功体験は、自己肯定感を高める効果があるようです。

さらに、園芸にはリラックス効果やストレス緩和効果があり、血圧の低下や心理的安定にも寄与すると言われています。加えて、四季を感じることは認知症予防にもつながるとされ、日本人にとって大切な季節の変化を味わう機会にもなっています。

利用者様は朝、ももに到着すると、「今日はどんなふう to 育っているかな」と庭を見に行くことを楽しみにされています。これからも、この活動が継続できるよう、スタッフ一同、取り組んでまいります。



文責：宮崎

鳥取では、開設時より季節ごとのイベントや外出を通して、利用者様に「四季を感じて頂く」様々な取り組みを継続しています。「四季を感じる」とは、単にカレンダーの月日の数字を見るのではなく、五感や心の動きを通して、自然の緩やかな移ろいを自分の一部として受け取ることではないかと考えています。長年人生を積み重ねてきた利用者様だからこそ、季節の巡りに対してより繊細で、より深い感情を抱かれることが多いように感じます。

また、認知症の方は、「今の季節」「ここはどこか」といった見当識が曖昧になりがちです。季節ごとの行事や景色の鮮やかな色彩などが『今、この瞬間』を彩ってくれます。そのため、認知症の方にとっての「四季を感じる」ということは、『今のこの瞬間』に繋ぎとめてくれる道しるべのような役割を果たしているのではないかと考えています。スタッフ(看護・介護・リハビリ・栄養士・調理員・事務他)は、一丸となって各利用者様へ寄り添いながらイベントを計画しています。

【主なイベントカレンダー】

春 (3月～5月)

- ・ひな祭り
- ・お花見 (桜・イヌナシ)
- ・こいのぼり鑑賞
- ・母の日
- ・柏餅・いばら餅作り



夏 (6月～8月)

- ・あじさい鑑賞
- ・びわ採り
- ・夏祭り
- ・スイカ割り



秋 (9月～11月)

- ・敬老会
- ・コスモス鑑賞
- ・運動会



冬 (12月～2月)

- ・クリスマス会
- ・初釜
- ・餅つき
- ・節分



春には、施設前を流れる藤川沿いに満開の桜が咲き、美しい桜堤となって利用者様を楽しませてくれています。ちょうど同じ時期には、施設近くにある鳥取神社の隣で、淡い白い花を咲かせる珍しいイヌナシ(天然記念物)も満開となり、毎年ピンクと白の綺麗なコントラストを利用者様と共に楽しんでいます。利用者様が、面会に来られたご家族と一緒に施設前の桜を見に行かれることもあります。また、外出先の公園でご家族と合流して一緒にあじさい鑑賞を楽しまれるという方もいらっしゃいます。

「桜が咲いている、春だね」「あじさいが綺麗だね、もう梅雨かな」といった変化を感じることで、時間の流れや季節を正しく認識することができます。また、自分の身近にいたご家族と共に昔見た景色と重ね合わせることで、過去の楽しかった記憶などが呼び起こされ、脳全体の活性化にも繋がります。実際、いつもは今日の出来事を忘れたと言われる利用者様でも、行事や外出のことは覚えていらっしゃる場合があります。



もも鳥取では、利用者様の様子をスタッフが記入した定期便を、継続して毎月ご家族のもとへお届けしています。これまで実施してきたイベントや外出の様子は、ご家族にも思い出を共有して頂けるよう、定期便に写真を載せています。これまでの人生の中で積み重ねてきた時間に加えて、これからもたくさんの思い出の積み重ねが利用者様とご家族の新しいページとなり、それぞれの人生のストーリーを作り続けていけるよう、スタッフ一同尽力してまいります。

文責：刀根(慎)